

教育相談

通常の学級における学習障害の児童の存在とその特性への気づきを
高め、適切な支援につなげるための調査法の開発に関する研究
- 学習障害調査票簡便版活用の妥当性の検討 -

教育相談課 指導主事 笹 日 出 美 他 4 名 注

要 旨

学習障害調査票簡便版が学習障害（LD）のアセスメントに有効であることを検証するために、簡便版の結果と個別式知能検査（WISC-）の結果を比較検討した。データ数が少なく十分とは言えないが、簡便版はおおむね妥当性があると判断してもよいという結果が得られた。また、支援リスト作成のために、簡便版6領域とWISC- 群指数との相関をとったところ、簡便版5領域「聞く」「話す」「読む」「計算する」「推論する」で、群指数との相関が見られた。

キーワード：LD WISC- 妥当性

主題設定の理由

1 これまでの研究の経緯から

学級の中には、不登校、学習障害（以下LD）・ADHD・高機能自閉症、反社会的行動、集団不適応、家庭的な背景、身体的な障害、学習の遅れなど、様々な面で教師にとって気になり、具体的な手だてを講じていく必要性を感じる児童がいる。平成14年の文部科学省の調査では、通常の学級に、LD・ADHD・高機能自閉症等いわゆる発達障害と呼ばれる児童生徒が、6.3%（本県では3.2%）の割合で在籍している可能性が示された。

その中でも、LD児は、個々の状態に応じた支援を必要としていながらも、表面的にはその困難さが見えにくく、十人十色の状態像を示すために、単にある教科が苦手な子としてとらえられ、その子の状態に合った対応をされず、周囲からは「努力が足りない、怠けている」と見られていることが少なくない。また、学級担任等がLDを疑いながらも、他者に迷惑をかけることが少ないので、多忙な学校現場では、対応が後手になってしまうこともある。

そこで、LDが疑われる児童に対して、学級担任が日常のかかわりの中で、学習のつまずきの状態を評価し、認知能力の偏りや学習スタイルの特性を、短時間で簡単にチェックできるものがあれば、支援を開始する契機となると考え、先行研究をもとに6領域各8質問、合計48質問項目からなる学習調査用紙簡便版（以下簡便版）を作成した（江渡準悦他，2005）。

なお、簡便版作成の研究については、平成17年度の研究紀要と平成18年度の全国教育研究所連盟研究発表大会において、すでに発表をしている。

2 今年度の研究について

学校教育法の一部改正等を受けて、19年度4月からLD児に対しての適正な支援をさらに充実していくことになった。しかし、学校現場では、LDという言葉はかなり知られてきたものの、具体的にどのような状態の児童にどのような支援をしていけばよいのか、まだまだ模索の状態である。

したがって、このような状態の児童には、このような支援が考えられるという対応のヒントを、短時間で簡単に得られるものがあれば、学校現場におけるLD児支援の指針になると考える。

そのために、LD児の認知能力の偏りや学習スタイルの特性に応じた、手だてに関する先行研究を収集し、簡便版の6領域「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」に対応させて整理しながら、今年度末までに、LD児支援のヒントリストと、それらの使い方の手引きを作成していく。

本研究は、その第一段階として、簡便版の結果と個別式知能検査の結果等を比較する方法を用いて、簡便版がLDのアセスメント及び教育診断のために有効であることを検証するものである。

研究の目標

通常の学級の学級担任が、LDの特徴を持つ児童の学習困難の状態に気付き、認知能力の偏りや学習スタイルの特性を把握するために、簡便版を用いたアセスメント及び教育診断が有効であることを、簡便版の結果と個別式知能検査の結果等とを比較し、簡便版の妥当性の検討をすることで明らかにする。

研究の仮説

通常の学級の学級担任が、LDの判断に妥当性のある簡便版を用いれば、LDの特徴を持つ児童の学習困難の状態に気付き、適切な支援につなげるための認知能力の偏りや学習スタイルの特性を、把握することができるであろう。

研究の実際とその考察

1 学習障害調査票簡便版の作成（発表済み）

先行研究「学習障害の判断に必要な心理教育的アセスメントに関する研究」（笹倫子他，2004）の学習障害調査票の質問項目内容について因子構造を明らかにするとともに、各領域内における因子構造の分析結果及び基礎的学力を構成している要素を基にして、簡便で回答しやすい簡便版の作成を試みた。その結果、LD児の高い抽出感度を持った6領域各8質問、合計48の質問項目に絞り込むことができた。

2 学習障害調査票簡便版の検証

(1) 追跡調査の実際

ア 調査対象

平成17年度に簡便版作成のための調査に回答していただいた小学校の中から、LDと判断または診断された児童及びLDの疑いがあると思われる児童で、かつ、個別式知能検査（WISC-）の検査結果がある2学年以上の児童が在籍している小学校30校を対象とした。

イ 調査方法

平成18年10月に調査票等を郵送し、12月末日までに郵送により回収した。回答は、通常の学級の学級担任及び特殊学級（特別支援学級）の学級担任に依頼した。

調査内容は調査票と簡便版6領域各8質問、合計48の質問項目よりなる。

調査票は、 学年・性別 LDの判断/診断 在籍状況 WISC-の結果 について記入する。（調査票は資料として最後に掲載）

ウ 調査結果の集計

30校中、15校から32人についての回答が回収された。このうち被検者（児童）の情報に明らかな不備（欠測値等）がある3人のデータと、WISC-での全検査IQが70未満で、全般的な知的発達の遅れがあると思われる3人分のデータは削除し、14校26人分のデータで比較検討することにした。

26人の学年と性別の内訳は、表1の通りである。学年別では、各学年5～6人であるが、男女別では、男子18人、女子8人で、前回の調査同様、男子が多かった。

なお、学年は18年度のもの

である。また、このうち通常の学級に在籍する児童は11校22人で、特別支援学級に在籍する児童は、3校4人である。

エ データ一覧

26人分の調査票1の記載内容（基本情報とWISC-の結果）と、簡便版の結果をまとめ一覧（表2）とした。

表1 対象児童の学年と性別

		学 年					合計
		2年	3年	4年	5年	6年	
性別	男子	3	3	4	5	3	18
	女子	2	2	1	1	2	8
合計		5	5	5	6	5	26

表2 簡便版プロフィールとWISC - の結果の一覧

	基本情報			簡便版	WISC -							
	学年	性別	LDの判断/診断	プロフィール タイプ	全検査 IQ	言語性・ 動作性	言語・ 知覚	言語・ 注意	言語・ 処理	知覚・ 注意	知覚・ 処理	注意・ 処理
1	2	男	有	B	94	>>	>>					
2	2	男	有	B	87	>>	>>			<<	<	>
3	2	男	疑	C	99	<<	<		<			
4	2	女	疑	A	87		>	>				<
5	2	女	疑	C	76			>		>>		<<
6	3	男	有	B	110		<<			>	>>	>
7	3	男	疑	A	76			>				
8	3	男	疑	A	82			>	>>		>>	>>
9	3	女	有	A	74			<<	<<	<<	<<	>
10	3	女	疑	C	78	<<	<<		<<		<<	<<
11	4	男	疑	A	93	>>	>>	>>	>>			
12	4	男	疑	A	79	<		<<	<<		<<	<
13	4	男	疑	C	92	>>	>>	>>	>>			
14	4	男	疑	F	72	>>	>>			<<	<<	<
15	4	女	疑	B	95							
16	5	男	有	A	95			>>	>>	>>	>>	
17	5	男	有	D	76	>>	>>		>	<<	<<	
18	5	男	疑	A	89	>>	>>	>>	>>		>	
19	5	男	疑	A	76			>>		>>		<
20	5	男	疑	D	92			>>		>>		<
21	5	女	有	G	71			>	<		<<	<<
22	6	男	有	C	86	<<	<<	>>		>>	>>	
23	6	男	疑	A	88	<<	<<	<<	<		>	
24	6	男	疑	A	79		>		<<		<<	<<
25	6	女	疑	B	86	>>	>>		>>	<<		>>
26	6	女	疑	C	79				<<		<<	<

【表2の見方について】

・LDの判断/診断について

医療機関や教育センター等の相談機関，専門家チームでLDの判断や診断を受けた場合には「有」，判断や診断はないが，記入者である学級担任が，LDの疑いがあるとした場合は「疑」とした。

・簡便版のプロファイルタイプ

A・B型が「LDの可能性が高い」，C・D・E型が「LDの疑いあり」，F・G型が「LDの可能性が低い」となる。

・WISC - の全検査IQ (FIQ)

69以下が精神遅滞，70～79が境界線，80～89が平均の下，90～109が平均，110～119が平均の上，120～129が優れている，130以上が非常に優れている，となっている。

・WISC - の記号

「>>」は5%水準の有意差を，「>」は15%水準の有意差を表す。また「 」は有意差が認められないことを表す。なお，「>」は前者が後者よりも高いことを示しており，「<」は前者が後者よりも低いことを表している。例えば，言語性・動作性の欄に「>>」の記号がある場合は，言語性IQが5%水準の有意差で動作性IQよりも高いということを表している。

(2) 結果の比較と分析

ア 簡便版の妥当性の検討

簡便版がLDのアセスメント及び教育診断に有効であるかどうか、つまり簡便版の妥当性を検討するために、以下の(ア)(イ)について検証した。

(ア) LDの判断または診断と簡便版プロフィールとの比較

被検者情報によるLDの判断または診断結果と、簡便版によるプロフィール類型A型～G型との一致度をみるための比較を行った。

その結果、下の表3のように、LDと判断または診断された児童8人の場合は、「LDの可能性が高い」A型・B型は5人で62.5%、「LDの可能性がある」C型・D型は2人で25.0%、「LDの可能性が低い」G型は1人で12.5%である。

同様に、LDの疑いがある児童18人の場合は、「LDの可能性が高い」A型・B型は11人で61.1%、「LDの可能性がある」C型・D型は6人で33.3%、「LDの可能性が低い」F型は1人で5.6%である。

つまり、LDと判断または診断された児童及び疑いのある児童合計26人では、「LDの可能性が高い」または「LDの可能性がある」A～D型となったのは24人で92.3%である。また「LDの可能性が低い」となったのは、F型・G型の2人で7.7%である。なお、この2人のWISC-の全検査IQは72と71であり、境界線の児童であると言える。

表3 LDの判断または診断と簡便版プロフィールとの比較

	簡便版のプロフィール類型			
	LDの可能性が高い	LDの可能性がある	計	LDの可能性が低い
LDの判断/診断有(8人)	62.5% (5)	25.0% (2)	77.5% (7)	12.5% (1)
LDの疑い(18人)	61.1% (11)	33.3% (6)	84.4% (17)	5.6% (1)
判断/診断有と疑いの合計(26人)	61.5% (16)	30.8% (8)	92.3% (24)	7.7% (2)

(イ) 簡便版プロフィールと個別式知能検査(WISC-)の個人内差の有無との比較

学力は知能そのものではないが、知能が学力の基礎的な潜在能力となっており、知能が低いと一般的に学習が遅れる傾向にあると言える。

さて、LDとは、一人の子どもの中で、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する等の基礎学習能力に著しい個人内差があるということである。よって、LDの判断には、基礎学力能力の個人内差の有無が重要な情報となる。

そして、WISC-は、一人の子どもの全般的な知能水準だけではなく、知能の個人内差を、言語性知能と動作性知能という枠組みと、群指数という視点からも診断できる。結果として、全検査IQ(FIQ)のほか、言語性IQ(VIQ)と動作性IQ(PIQ)が分かり、さらには、言語理解、知覚統合、注意記憶、処理速度という4種類の群指数が得られる。

知能が学習能力の潜在能力であれば、LD児には、知能の個人内差も認められるはずであり、簡便版の結果と、同一人物のWISC-の結果、特に言語性IQ(VIQ)と動作性IQ(PIQ)の個人内差の有無や、4種類の群指数の個人内差の有無とを比べることは、簡便版の妥当性を見る指標になると思われる。

下の表4は、簡便版によるLDの可能性の高低と、WISC-による言語性IQ(VIQ)と動作性IQ(PIQ)の個人内差の有無や、4種類の群指数の個人内差の有無とを比較したものである。

これによると、簡便版のプロフィールで「LDの可能性が高い」または「LDの可能性がある」となり、かつ、WISC-の群指数に有意差が認められたのは23人で、全体の88.5%である。

表4 簡便版プロフィールとWISC-の個人内差の有無との比較

		WISC-		
		言語性・動作性に有意差有	群指数に有意差有	有意差なし
簡便版の プロファ イル類型	LDの可能性が高い	26.9% (7)	57.7% (15)	3.8% (1)
	LDの可能性がある	19.2% (5)	30.8% (8)	0.0% (0)
	計	46.2% (12)	88.5% (23)	3.8% (1)
	LDの可能性が低い	3.8% (1)	7.7% (2)	0.0% (0)

イ 簡便版6領域対応の支援リスト作成のために

現場の教員が、簡便版の結果をLD児の支援に生かせるように、簡便版の6領域「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」に対応した支援リストを作成するために、以下について検証した。

(7) 個別式知能検査(WISC-)の群指数と簡便版6領域の結果との相関

WISC-の結果から、認知能力の偏りや学習スタイルの特性を読み取って、どのような支援を行ったらよいかという研究はかなり行われている。したがって、WISC-と簡便版6領域との関連が分かれば、簡便版の結果からLD児支援の手だてを考えていく大きな指針となる。

ところで、先行研究では、LDの定義に掲げられた6領域「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」ごとに、WISC-の4群指数「言語理解」「知覚統合」「注意記憶」「処理速度」との関連を指摘している(上野一彦他, 2005)。それをまとめると以下ようになる。

- ・「聞く」領域は、特に「言語理解(VC)」「注意記憶(FD)」と関連がある。
- ・「話す」領域は、特に「言語理解(VC)」と関連がある。
- ・「読む」領域は、特に聴覚的な処理をする「言語理解(VC)」「注意記憶(FD)」と関連が深い。視覚性の問題でつまずく子どもは「処理速度(PS)」の弱さに表れる可能性がある。
- ・「書く」領域は、特に「言語理解(VC)」「注意記憶(FD)」「処理速度(PS)」と関連がある。
- ・「計算する」「推論する」領域は、「注意記憶(FD)」と強い関連があり、その他の群指数「言語理解(VC)」「知覚統合(PO)」「処理速度(PS)」とも関連が見られる。

それでは、簡便版の結果でも、WISC-の群指数との上記のような関連が見られるかどうか、統計処理ソフト(SPSS10.0)を用い、簡便版の6領域の尺度点(別表1として後ろに掲載)とWISC-の4群指数(別表2として後ろに掲載)を用いて、両者の相関関係を調べた。相関係数により相関関係を示したのが、下の表5である。

表5 WISC-の群指数と簡便版6領域の尺度点との相関係数

		聞く	話す	読む	書く	計算する	推論する
言語理解	Pearsonの相関係数	0.059	<u>-0.247</u>	-0.171	0.07	-0.177	-0.081
	有意確率(両側)	0.775	0.225	0.402	0.733	0.388	0.695
	N	26	26	26	26	26	26
知覚統合	Pearsonの相関係数	-0.089	-0.001	0.065	-0.158	<u>-0.277</u>	<u>-0.482*</u>
	有意確率(両側)	0.667	0.995	0.751	0.441	0.171	0.013
	N	26	26	26	26	26	26
注意記憶	Pearsonの相関係数	<u>-0.223</u>	-0.148	-0.116	0.126	0.002	0.027
	有意確率(両側)	0.273	0.471	0.574	0.539	0.993	0.895
	N	26	26	26	26	26	26
処理速度	Pearsonの相関係数	-0.09	-0.17	<u>-0.226</u>	-0.039	-0.007	-0.168
	有意確率(両側)	0.661	0.406	0.267	0.848	0.971	0.413
	N	26	26	26	26	26	26

* 相関係数は5%水準で有意(両側)である。

相関係数0.2~0.4は弱い相関がある。相関係数0.4~0.7は中程度の相関がある。

表5から読み取れる相関関係をまとめると、次のようになる。なお、簡便版の尺度点は「つまずきなし」が1、「つまずき疑い」が2、「つまずき明らか」が3となるため、マイナスの相関となる。

- ・簡便版「聞く」領域は、「注意記憶(FD)」と弱い相関が見られる。
- ・簡便版「話す」領域は、「言語理解(VC)」と弱い相関が見られる。
- ・簡便版「読む」領域は、「処理速度(PS)」と弱い相関が見られる。
- ・簡便版「計算する」領域は、「知覚統合(PO)」と弱い相関が見られる。
- ・簡便版「推論する」領域は、「知覚統合(PO)」と5%水準で有意な中程度の相関が見られる。

今回行った、簡便版6領域の尺度点とWISC-4群指数の相関関係と、上野らの指摘するLD6領域とWISC-4群指数の関連について、両者を比較対照できるように以下の表6にまとめた。

表6 簡便版6領域尺度点とWISC-4群指数の相関関係と
LD6領域とWISC-4群指数の関連との対照表

簡便版	WISC-4群指数との相関	WISC-4群指数との関連	LDの定義
「聞く」	「注意記憶」と弱い相関が見られる。	特に「言語理解」「注意記憶」と関連がある。	「聞く」
「話す」	「言語理解」と弱い相関が見られる。	特に「言語理解」と関連がある。	「話す」
「読む」	「処理速度」と弱い相関が見られる。	特に聴覚的な処理をする「言語理解」「注意記憶」と関連が深い。視覚性の問題でつまずく子どもは「処理速度」の弱さに表れる可能性がある。	「読む」
「書く」		特に「言語理解」「注意記憶」「処理速度」と関連がある。	「書く」
「計算する」	「知覚統合」と弱い相関が見られる。	「注意記憶」と強い関連があり、「言語理解」「知覚統合」「処理速度」とも関連が見られる。	「計算する」
「推論する」	「知覚統合」と5%水準で有意な中程度の相関が見られる。	「注意記憶」と強い関連があり、「言語理解」「知覚統合」「処理速度」とも関連が見られる。	「推論する」

このように、それぞれの領域が、WISC-4のどの群指数と関連性があるのかを比較対照すると、簡便版6領域のうち、「書く」を除いた5領域「聞く」「話す」「読む」「計算する」「推論する」で、上野らの指摘と一部共通する結果が得られた。

研究の成果と課題

検証のためのデータ数が少なかったため、十分な分析結果が得られたとは言えない。

しかし、LDの判断または診断と簡便版プロファイルとの比較では、26人のうち全検査IQが境界線上の2人を除いた24人で(92.3%)、LDの判断または診断と簡便版プロファイルの類型とが一致するという結果が得られた。

また、簡便版プロファイルとWISC-4の群指数の有意差の比較では、簡便版プロファイルで「LDの可能性が高い・可能性がある」類型となり、かつ、WISC-4の群指数で有意差が認められたのは26人のうち23人(88.5%)という結果が得られた。

これらのことから、簡便版はおおむね妥当性があると判断してもよいと考えた。

さらに、WISC-4の群指数と簡便版6領域の結果との相関では、簡便版「聞く」領域は「注意記憶」と、「話す」は「言語理解」と、「読む」は「処理速度」と、「計算する」は「知覚統合」と弱い相関が見られ、「推論する」は「知覚統合」と5%水準で有意な中程度の相関関係が見られるという結果が得られた。これは5領域「聞く」「話す」「読む」「計算する」「推論する」で、先行研究(上野他 2005)と一部共通する結果であった。

この結果を参考に、LD児の認知能力の偏りや学習スタイルの特性に応じた手だてに関する先行研究を収集し、支援対応を簡便版の6領域「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」に対応させて整理しながら、今年度末までにLD児支援のヒントリストを作成するとともに、それらを現場の教員が効果的に活用するための手引きを作成するという計画で、現在のところ、チェックリストである簡便版と、簡便版の結果による支援リスト、そしてそれらの使い方からなる試案「学習支援48」ができています。

今後はそれを活用しながら、調査に協力していただいた学校を中心に、LD児支援のお手伝いを校内研修等で行っていくつもりであった。しかし、残念ながら、簡便版の先行研究でもある「学習障害の判断に必要な心理教育的アセスメントに関する研究」(篁 2004)の学習障害調査票を基にした、「LDI」が日本文化科学社から発行され、簡便版の質問項目のほとんどが重複するために、簡便版の使用ができなくなってしまい、学校支援という次の段階に、大きな課題を残すことになった。

現在，学校現場は多忙を極め，特に学級担任は飽和状態である。有効であると分かっているにもかかわらず，時間や手間がかかるものを新たに取り入れるのはなかなか難しい。短時間で簡単に実施でき，具体的な対応のヒントが得られるものが求められている。

教育相談課では，これからも通常の学級の学級担任の視点で，学級の児童全員を視野に入れた支援について考えていきたいと思う。

<注>

教育相談課 指導主事 村上昌隆，三上純子，栗林直人，北城高広

なお，学習障害調査票簡便版作成に当たっては，教育相談課指導主事（当時）江渡準悦，船水恭子，高木一則が携わった。

<引用文献>

江渡準悦他 2006 『通常学級におけるLDのある子どもの存在とその特性への気付きを高め，適切な支援につなげるための調査票の開発に関する研究』「青森県総合学校教育センター研究紀要」青森県総合学校教育センター

上野一彦他 2005 「軽度発達障害の心理アセスメントWISC - の上手な利用と事例」,P.50～53,日本文化科学社

<参考文献>

江渡準悦他 2006 『通常学級におけるLDのある子どもの存在とその特性への気付きを高め，適切な支援につなげるための調査票の開発に関する研究』「青森県総合学校教育センター研究紀要」青森県総合学校教育センター

上野一彦他 2005 「軽度発達障害の心理アセスメントWISC - の上手な利用と事例」日本文化科学社

篁倫子他 2004 『学習障害の判断に必要なとなる心理教育的アセスメントに関する研究』独立行政法人国立特殊教育総合研究所病弱教育研究部病弱教育研究室

藤田和弘他 2005 「WISC - アセスメント事例集 - 理論と実際 - 」日本文化科学社

森永良子他 1997 「LDの見分け方 - 診断とアセスメント」日本文化科学社

別表1 学習障害調査票簡便版のデータ(尺度点)

基本情報				学習障害調査票簡便版												プロ ファ イル
学 年	性 別	LDの 判断/ 診断	素点合計						尺度点							
			聞く	話す	読む	書く	計算 する	推論 する	聞く	話す	読む	書く	計算 する	推論 する		
1	2	男	有	17	12	11	31	10	11	1	1	1	3	1	1	B
2	2	男	有	27	11	8	17	8	16	3	1	1	1	1	1	B
3	2	男	疑	24	23	27	20	15	11	2	2	2	1	1	1	C
4	2	女	疑	30	26	13	24	21	19	3	3	1	1	2	2	A
5	2	女	疑	20	19	24	26	21	12	1	1	2	2	2	1	C
6	3	男	有	17	9	29	28	8	9	1	1	3	3	1	1	B
7	3	男	疑	26	28	29	29	18	18	3	3	3	3	1	2	A
8	3	男	疑	23	19	28	22	14	11	2	2	3	1	1	1	A
9	3	女	有	22	26	32	28	24	18	1	3	3	3	3	2	A
10	3	女	疑	25	19	23	21	19	17	2	2	2	1	1	2	C
11	4	男	疑	30	26	30	28	17	25	3	3	3	3	1	2	A
12	4	男	疑	25	24	28	29	13	22	2	3	3	3	1	2	A
13	4	男	疑	18	13	22	20	19	17	1	1	2	1	1	1	C
14	4	男	疑	16	18	11	15	17	20	1	1	1	1	1	1	F
15	4	女	疑	15	9	10	8	23	11	1	1	1	1	3	1	B
16	5	男	有	26	21	17	17	14	17	3	3	2	1	1	1	A
17	5	男	有	25	18	28	32	26	30	3	2	3	3	3	3	D
18	5	男	疑	26	19	29	29	9	15	3	2	3	3	1	1	A
19	5	男	疑	12	15	19	21	26	18	1	1	2	1	3	1	A
20	5	男	疑	27	28	29	32	28	21	3	3	3	3	3	2	D
21	5	女	有	30	29	31	27	30	25	3	3	3	3	3	3	G
22	6	男	有	20	12	12	24	18	14	1	1	1	2	1	1	C
23	6	男	疑	24	22	32	24	22	17	3	3	3	2	2	1	A
24	6	男	疑	27	15	23	29	19	15	3	1	2	3	2	1	A
25	6	女	疑	11	11	8	27	30	24	1	1	1	3	3	3	B
26	6	女	疑	13	9	12	10	19	18	1	1	1	1	2	1	C

別表2 WISC - のデータ(群指数)

	基本情報			簡便版 プロフ ファイル	WISC -						
	学年	性別	LDの判 断/診断		IQ			群指数			
					言語性	動作性	全検査	言語理解	知覚統合	注意記録	処理速度
1	2	男	有	B	104	85	94	103	84	94	94
2	2	男	有	B	96	79	87	100	82	106	94
3	2	男	疑	C	91	107	99	91	105	97	103
4	2	女	疑	A	91	85	87	97	84	82	94
5	2	女	疑	C	76	80	76	85	84	65	86
6	3	男	有	B	105	114	110	105	121	106	94
7	3	男	疑	A	81	76	76	85	79	73	78
8	3	男	疑	A	87	79	82	92	84	79	61
9	3	女	有	A	81	72	74	74	71	109	97
10	3	女	疑	C	72	89	78	73	89	79	108
11	4	男	疑	A	103	83	93	106	87	88	89
12	4	男	疑	A	77	86	79	76	82	91	106
13	4	男	疑	C	100	85	92	103	85	85	86
14	4	男	疑	F	81	68	72	83	63	82	94
15	4	女	疑	B	92	99	95	95	102	97	106
16	5	男	有	A	97	93	95	100	93	68	72
17	5	男	有	D	96	58	76	97	56	88	86
18	5	男	疑	A	97	82	89	103	87	85	75
19	5	男	疑	A	76	80	76	83	85	65	78
20	5	男	疑	D	89	97	92	95	103	79	92
21	5	女	有	G	74	75	71	76	72	56	67
22	6	男	有	C	80	96	86	83	103	68	75
23	6	男	疑	A	79	101	88	76	102	94	89
24	6	男	疑	A	81	80	79	86	72	76	122
25	6	女	疑	B	104	69	86	106	69	112	75
26	6	女	疑	C	84	79	79	86	80	88	103

「学習障害調査票簡便版」の妥当性の検討にかかわる調査 回答用紙

調査票	調査対象児童について、それぞれの質問に対して該当する番号を 印で囲んで ください。()内へは具体的に記入してください。																																																																														
． 学年 () 年生 性別： 1 男 2 女 ． LDの判断/診断 1. 有り……いつ頃 () ところで () 2. なし……「なし」だが、この児童にLDの疑いがあると思われる。	． 「WISC - 知能検査」結果について 1. 検査日 (平成 年 月 日) 2. 結果 (IQ・群指数・下位検査評価点の数値を記入してください)																																																																														
． 在籍状況 1. 通常の学級 2. 特殊学級 (知的・情緒・肢体・その他)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td colspan="3">I Q</td> <td colspan="4">群 指 数</td> </tr> <tr> <td>言語性</td> <td>動作性</td> <td>全検査</td> <td>言語</td> <td>知覚</td> <td>注意</td> <td>処理</td> </tr> <tr> <td>V I Q</td> <td>P I Q</td> <td>F I Q</td> <td>V C</td> <td>P O</td> <td>F D</td> <td>P S</td> </tr> <tr> <td> </td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td colspan="12">下 位 検 査 評 価 点</td> </tr> <tr> <td colspan="6">言 語 性 検 査</td> <td colspan="6">動 作 性 検 査</td> </tr> <tr> <td>知 識</td> <td>類 似</td> <td>算 数</td> <td>単 語</td> <td>理 解</td> <td>数 唱</td> <td>完 成</td> <td>符 号</td> <td>配 列</td> <td>積 木</td> <td>組 合</td> <td>記 号</td> <td>迷 路</td> </tr> <tr> <td> </td> </tr> </table>	I Q			群 指 数				言語性	動作性	全検査	言語	知覚	注意	処理	V I Q	P I Q	F I Q	V C	P O	F D	P S								下 位 検 査 評 価 点												言 語 性 検 査						動 作 性 検 査						知 識	類 似	算 数	単 語	理 解	数 唱	完 成	符 号	配 列	積 木	組 合	記 号	迷 路													
I Q			群 指 数																																																																												
言語性	動作性	全検査	言語	知覚	注意	処理																																																																									
V I Q	P I Q	F I Q	V C	P O	F D	P S																																																																									
下 位 検 査 評 価 点																																																																															
言 語 性 検 査						動 作 性 検 査																																																																									
知 識	類 似	算 数	単 語	理 解	数 唱	完 成	符 号	配 列	積 木	組 合	記 号	迷 路																																																																			

簡便版1 聞 く	簡便版2 話 す	簡便版3 読 む	簡便版4 書 く	簡便版5 計 算 する	簡便版6 推 論 する
1.相手の話を聞いていない	1.話すとき、抑揚が	1.平仮名や片仮名などの	1.書くのが遅い	1.位数の大きい数を	1.時間の概念を
2.個別に言われれば	2.長い文を復唱することが	2.促音や拗音などの	2.促音や拗音などの	2.位数の大きい数を	2.図形を模写する
3.聞いたことをすぐに	3.話すときに使う語い	3.初めて出てきた語や	3.独特の筆順で	3.指を使って	3.時間に関する(小2)
4.簡単な指示や質問でも	4.明確な語を使わず	4.文中の語句や行を	4.漢字を書く際	4.簡単な計算が	4.量を表す(小2)
5.複数の指示を出すと	5.単語の羅列や短い文で	5.適切でない	5.文字を写すことが	5.文章題を解くのが	5.表やグラフを(小2)
6.ゆっくり話されれば	6.助詞「は」「を」「へ」	6.音読が遅い	6.文法的な誤りが	6.九九ができない(小2)	6.三角定規や(小4)
7.程度を表すことばや	7.思いつくままに話すなど	7.勝手読みがある	7.句読点が抜けたり	7.乗法の計算が(小3)	7.面積の概念が(小4)
8.ことばの背後に隠された	8.内容をわかりやすく	8.音読はできても	8.筋道の通った文章	8.小数や分数の(小4)	8.目的にそって行動を

()の中に1～4ではまる評価点を入れる)

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table> 選択数 小計	1	2	3	4					<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table> 選択数 小計	1	2	3	4					<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table> 選択数 小計	1	2	3	4					<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table> 選択数 小計	1	2	3	4					<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table> 選択数 小計	1	2	3	4					<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table> 選択数 小計	1	2	3	4				
1	2	3	4																																																		
1	2	3	4																																																		
1	2	3	4																																																		
1	2	3	4																																																		
1	2	3	4																																																		
1	2	3	4																																																		
素点合計	素点合計	素点合計	素点合計	素点合計	素点合計																																																

「学習障害調査票簡便版」の臨床的妥当性の検討にかかわる調査に御協力いただきありがとうございました。「学習障害調査票簡便版」が教育現場で使用できる質問紙として役立てたいと考えています。
 なお、この調査で得られた結果は、情報の保護に十分に気をつけるとともに、研究目的以外に利用しないことを確約致します。 青森県総合学校教育センター 教育相談課 船 水 恭 子

・ 所 属 所 名 _____ ・ 電 話 番 号 _____
 ・ 所 属 長 名 _____ ・ 記 入 担 当 者 氏 名 _____